

照葉樹林だより

No. 57
2021 1.20



綾の自然の盆栽 大きな石にシダやコケ、花やススキが根を張り、光に向って背伸びする姿は、照葉樹にも負けない美しさ。まるで自然の生み出した盆栽のよう
(春 板木林道 撮影:大津留タカ子)

復元見本林の意味と
今後の活用について

..... 2-3 p

綾ユネスコエコパーク その後の動き 4-5 p

綾の照葉樹林プロジェクト活動報告

..... 6-7 p

ニュース「綾ナチュラルガーデン」
事務局だより

..... 8 p

発行:一般社団法人 てるはの森の会

〒880-0014 宮崎県宮崎市鶴島2-9-6 みやざきNPOハウス403号

TEL 0985-35-7288 / FAX 0985-35-7289

E-mail: teruha@miyazaki-catv.ne.jp ホームページ: <http://www.teruhanomori.jp> (HPアドレスが変わりました。フェイスブックも発信中!)

「綾の照葉樹林プロジェクト」は、日本最大級の面積を誇る
綾の照葉樹林の保護・復元を目指す、官民協働のプロジェクトです

復元見本林の意味と 今後の活用について

(公財)日本自然保護協会 朱宮丈晴

綾の照葉樹林プロジェクトは、人工林を間伐し50～100年かけて照葉樹自然林を復元することを主な目的としています。自然林が復元していく過程は、標高や地形、斜面方位などの自然条件でも異なりますし、1代目/2代目人工林といった土地利用履歴、間伐の幅、植栽後の管理方法、林内の稚樹の分布状況、あるいは隣接する自然林からの距離、ニホンジカによる摂食なども復元過程に影響を与えると考えられます。それらは、モニタリング調査などを通じて科学的なデータに基づく検証を行っています。九州森林管理局は、エリア内における人工林の伐採後の復元状況を調査し、復元のしやすさに応じた優先度区分を行いました。すなわち、照葉樹が侵入し、林冠にまで達している林分では、植栽木を伐採して照葉樹を残せば、復元が容易であると考えられることから優先度が高いと考えられます。エリアを訪問した人だけでなく、復元を推進する当事者でさえ、過去の施業履歴や復元方法は、森林簿などの資料を見ればある程度わかるとはいって、現場にいくと意外にわからないものです。また、復元過程は複雑な要因が関わるため、施業履歴とその段階での復元状況が確認できることはその後の施業方針を検討する際に重要なことです。

そこで、綾の照葉樹林プロジェクトでは、積極的に推進すべき施業体系をとっている林分や、新たな技術により育成された林分を当該施業の推進及び技術の普及を図るための指標として施業指標林、いわゆる見本林を設定してきました。発足当初設定された見本林は、復元を担う事業体向けで、30年生以上の高齢級の復元間伐の見本林として復元エリア5（北浦林道沿い：2136～林小班、17.48ha、34年生スギ・ヒノキ、2135い林小班、16.13ha、36年生スギ・ヒノキ）に設置されました。また、30年生以下の若齢級の見本林は、ボランティアによる間伐を行う場所として、やはり復元エリア5（北浦林道沿い：2042い林小班、3.79ha、19年生スギ）に設置されました。その後、より利便性のよいエリア2（川中神社周辺：2045に4林小班、3.94ha、24年生ヒノキ、2045よ林小班、0.25ha、44年生スギ）に設置され、毎年度2回ボランティアによる間伐作業が行われています。

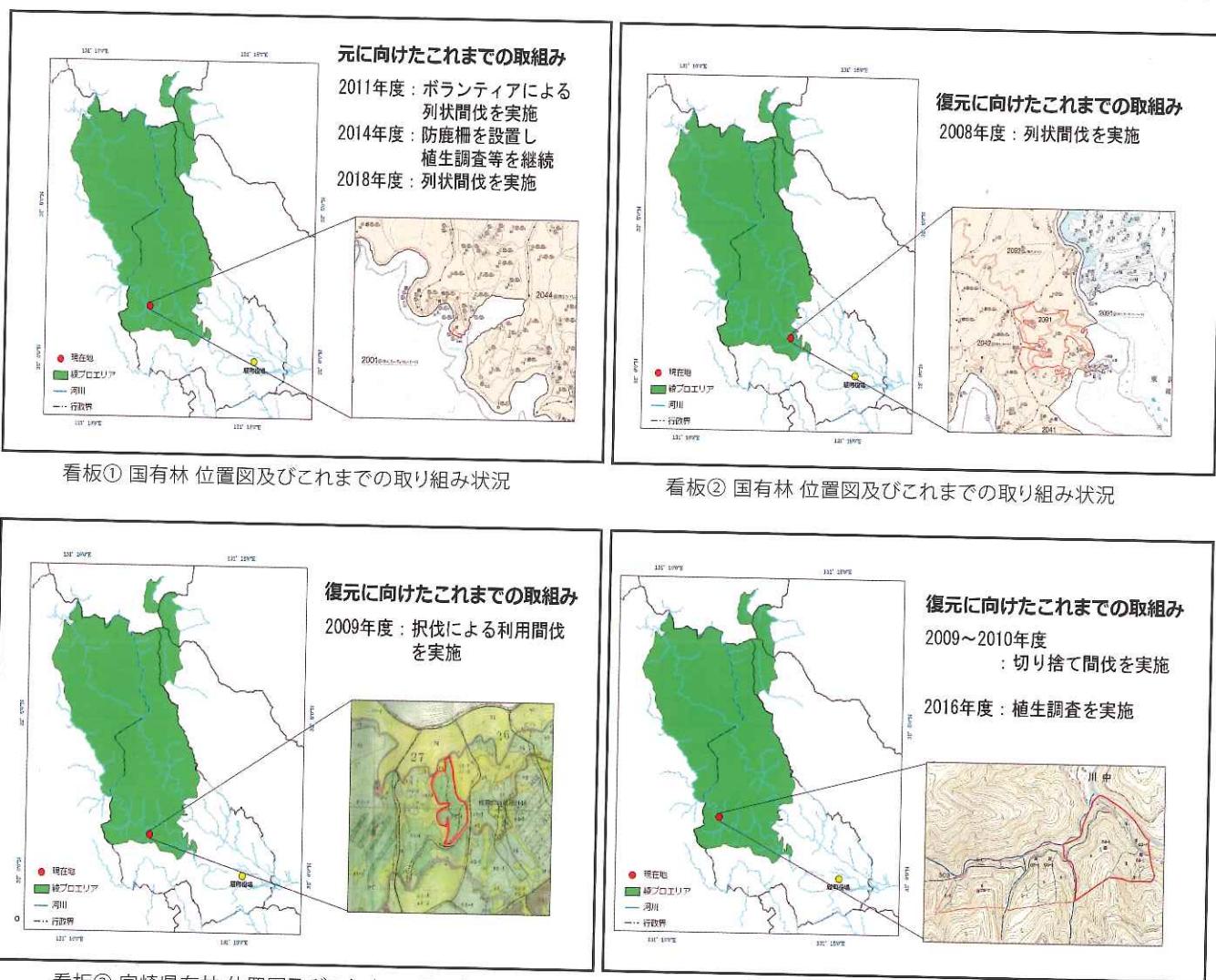


設置された看板

しかし、町民や訪問者が、復元状況を確認したいと思っても先に挙げた見本林は遠すぎますし、近隣で見られる場所がどこにあるかわかりませんでした。そこで、綾の照葉樹林プロジェクトでは、2015年から比較的アクセスのよい場所への復元見本林の設置について検討を行い、2020年3月に復元施業履歴を記載した見本林を設置しました。国有林からは、2045よ（看板① 0.25ha、47年生スギボランティア列状間伐）、2091る（看板② 44.67ha、69年生スギ列状間伐）、県有林からは27林班ウー1ー1（看板③ 4.04ha、64年生スギ択伐利用間伐）、町有林からは59林班アー3（看板④ 4.32ha、30年生スギ間伐）を選定し、図のような看板を設置して訪問者が復元状況を確認できるようにしました。

現在、二ホンジカの影響等により復元が進まない地域も多く見られることから、防鹿柵を設置して照葉樹林の復元が進むかモニタリングをしています。施業履歴のはっきりした見本林を確認することで、復元の進捗状況を確認し、今後の管理方法の検討などに活用することや一般の方に復元状況を見ていただく場所として活用していくことが期待されます。皆さんも機会がありましたら、訪問していただければと思います。

（しゅみや たけはる・鎌倉市）



綾ユネスコエコパーク 登録後の動き

綾町ユネスコエコパーク推進室 河野円樹

綾の照葉樹林プロジェクトや、自然生態系農業の推進など、半世紀にわたり人と自然が共生するまちづくりを進めてきた綾町は、その長年の取り組みが評価され、2012年にはユネスコエコパーク（Biosphere Reserve: 以下BR）に登録されました。その後、綾町にはユネスコエコパーク推進室が設置され、BRに求められる生物多様性保全・学術研究教育支援・持続可能な地域づくりの3つの機能を果たすため町内外の多様な主体と連携を深めながら新たな運営体制づくりが進められてきました。ユネスコへ10年間の動向を伝える定期報告の機会を2年後に控えた現在、各分野における登録後の動きについて簡単にご紹介します。

生物多様性の保全

BR登録の2012年には、綾町、てるはの森の会、日本自然保護協会の3者で「綾生物多様性協議会」を設立し、その後、各分野の専門家の協力のもと、2012年から2013年までの2年間にわたり、綾BRエリア内の動植物の生育・生息基礎調査や人と自然のふれあい重要地域調査アンケートが実施されました。これらの調査で得られた情報を元に、2015年に綾町生物多様性地域戦略を策定し、目指すべき町の将来像として、今では綾町総合長期計画や景観整備計画などに組み込まれています。また、2016年からは核心地域の拡大にむけた現地調査や国有林の保護林指定域変更の調整を進め、2018年には核心地域のエリアが一部拡張されました。



綾生物多様性地域戦略

学術支援及び人材育成

綾町には高校や大学といった高等教育の機関がないため、BRとして求められる学術的研究支援の機能については十分に果たせていませんでした。そこで、地元の大学を中心に、2015年には宮崎大学と、2016年には南九州大学と、2017年には宮崎国際大学とでそれぞれ

綾町と包括的連携協定を結び、具体的な調査研究をスタートさせました。連携協定を結んでいない研究機関も含めると、年間15～20件のテーマについて、綾町内で研究者や学生による調査研究が進んでいます。

持続可能な地域づくり

2018年には、町の中心部に綾BRの活動拠点となる綾ユネスコエコパークセンターが完成し、綾BRの概要を学べる展示室や料理教室などを行う調理実習室、研究者が滞在して調査研究に自由に利用できるサテライトオフィス等が設置されました。今後この施設は、地元住民や子ども達への教育の場として、また外部の研究機関との連携の中での情報の蓄積と発信の場として、綾BRに関わる多様な人材教育に貢献する拠点となることを目指しています。

特に現在進められている里山生態林再整備と「ニホンミツバチと有機ミカン栽培」との関係性を多面的に検証していくことにより、「観光や各種ツーリズム」「伝統文化の継承と環境教育」「地場産業活性化につながる人材育成」へと発展させ、綾BRらしい新たな地域ブランドを連鎖的に創り出したいと考えています。

(かわの のぶき・綾町)



宮崎大学との包括的連携協定の締結



綾ユネスコエコパークセンター展示室

「2019年度 綾の照葉樹林プロジェクト 活動報告」です。

例年、2月に綾町文化ホールで開催される「綾町公民館大会」で報告を行ってきました。

今年は、コロナ感染防止のため、中止となりました。

そこで、昨年度行いました29事業の中から、11事業を抜粋して紙面での報告とさせて頂きます。

てるはの森の会活動は、前号で行った報告と重複するものもありますが、ご了承ください。

4月8日～6月25日 照葉大吊橋遊歩道工事



11月23日(土) & 2月20日(木)

シカ柵ネット設置作業



11月23日(土) & 2月20日(木)

ボランティア林床調査



綾の照葉樹林プロジェクト実現のための活動

プロジェクト運営体制の見直し(全)

5回の検討会を行い、①連携会議会則について②事務局業務内容について③事務局業務に対する支援について④てるはの森の会の会員についての4項目について話し合われました。

その結果、2020年度（令和2年）は、事務局業務を、4月～10月九州森林管理局計画課、11月～3月綾町ユネスコエコパーク推進室が担当し、事務局体制を見直すことが提案されました。尚、会員の募集、会報の発行は行政では対応できないので、引き続きてるはの森の会がおこないます。1年の施行期間を経て、抜本的な見直しが行われます。

かんきょう教育

落石防止対策工事を行いました！(県)

照葉大吊り橋から伸びる歩道は「九州自然歩道」に指定されています。大自然が身近に体験できる九州自然歩道に対して、利用者が安全で快適に散策できるよう法面や路体の崩壊部分、急傾斜箇所の安全対策等を行い、危険箇所の解消を図っています。

照葉樹林の復元

獣害防除(忌避剤散布)を行いました！(県)

シカ・ウサギの食害からカヤを守るため、獣類が嫌がる匂いの薬剤を幹に塗って獣害対策を図っています。

山で獣類の食べ物が不足する冬場（11月～3月）に実施し、散布は年に2回で、1回目と2回目の散布期間を1ヶ月以上あけています。

シカネット設置作業をボランティアで行いました！(国&T)

これまで行ってきた間伐作業から、芽生えた稚樹をシカの食害から守るためにシカネット（獣害防護柵）設置作業へ変更して、11月と2月に照葉樹林への復元を図るためのボランティア作業を行いました。

11月は、ソーラーフロンティア株式会社の社員とその家族、2月は、大和ハウス工業株式会社の社員と一般の方に参加いただき、ボランティア・スタッフ合わせて延べ81人により2箇所にシカネットを設置しました。

調査・研究

ボランティア林床調査の実施(NJ&国&町&T)

綾プロエリアにおける自然林の復元状況を把握することを目的に、エリア内で林床の植生調査を日本自然保護協会や林床調査ボランティアと協力し、継続して実施しています。

これまでの調査結果から、植物の種数はそれほど変化がありませんが、個体数は減少傾向にあることがわかっています。

11月23日、2月20日に林床調査を行い、延べ27名が参加しました。

プロジェクト 活動報告概要版

11月30日(土)~12月1日(日)

公開フォーラム



2月23日(日)川中自然公園整備

梅まつり× 落ち葉かき作業



3月 プロジェクト内4カ所

見本林看板設置



おとの山学校

綾プロ地域づくり ワーキンググループ



綾ユネスコエコパークセンター



普及活動

フォーラムの実施(T)

森林総合研究所綾リサーチサイト30周年記念公開フォーラム

「照葉の森が育む綾の暮らし」(森林総合研究所主催、綾プロ共催)

11月30日～12月1日に開催。30日、5講演とポスターセッション、夜は復元神楽の披露が行われました。翌1日は、大森岳林道沿いのリサーチサイトで森林総合研究所の方にサイトの説明を受けました。延べ160名の参加でした。

かんきょう教育

川中自然公園遊歩道の整備を行いました!(T)

川中神社梅まつり(2月23日)に合わせて、遊歩道、製材所跡の整備を行いました。その後、川中神社に移動し、梅まつりに参加しました。祭りのふるまい料理を頂き、毎年好評の「森の落ち葉かき」を終了しました。今年も2月開催予定です。

照葉樹林の復元

見本林の看板を設置しました!(全)

人工林を照葉樹林に復元する過程や復元時状況を野外標本として、広く市民に見てもらうために、国有林2カ所、県有林1カ所、町有林1カ所に看板を設置しました。①復元へのイメージ図②プロジェクトの概要③見本林の概要④現在地(地図)が掲載されています。

かんきょう教育

ヤマビル調査内容と活動をまとめた報告書を作成しました!(T)

2017年～2019年の3年間の調査結果をまとめた報告書を作成しました。①生息数調査②宿主の同定③遺伝子解析④ヤマビル調査隊による市民調査を実施しました。今年度は、調査活動に関する学習会を実施し、116名が参加。歩道の途中に注意喚起看板を設置しました。



森と共生した地域づくり

地域づくりワーキンググループ(T&町)

上畑自治公民館を中心に昼食付里山体験ツアー「おとの山学校」事業実施に向け、コースの選定、パンフレットの策定中。2020年中にはモニターツアーを実地の予定です。

綾ユネスコエコパーク関連の活動を報告します!(町)

綾ユネスコエコパークセンターを利用した視察や小中学校の校外学習が多くありました。() 内は綾プロ関係の件数です。

- ・視察・外部対応：42件(33件)
- ・綾町主催のイベントなど：19件(18件)
- ・他者主催の講座など：14件(8件)
- ・取材対応：3件(3件)
- ・調査、作業：8件(6件)
- ・会議、打ち合わせ：72件(36件)

※国は九州森林管理局・宮崎森林管理署、県は宮崎県、町は綾町、N Jは日本自然保護協会、Tはてるはの森の会、全は連携会議各機関

照葉樹林だより第57号(2021年1月20日)

★ニュース★
「綾ナチュラルガーデン」



尾堂橋花壇 球根投げ入れの様子

錦原競馬場横花壇（秋）

綾町は、約50年前から「自然と共生」を理念に環境保全の取り組みが行われ、「花いっぱい運動」を行ってきました。町内では多くの場所で、一年草の美しい花壇を目にします。

今、新しいスタイルの花壇へと転換が始まっています。ユネスコエコパークに登録された里山の風景になじむよう、より自然な風景を目指し、近年ヨーロッパの都市で主流になってきた「自然回帰・持続可能性」の理念を具象化するため、多年草の花壇を目指しています。多年草の花壇は、将来の維持管理の負担軽減が図られ、また植栽法を工夫することで、植物のありのままの姿に近づけようとしています。

11月、尾堂橋花壇での球根の投げ植えのイベントに参加してきました。球根をポーンと花壇に投げ、落ちた場所に植え込むというものです。従来の植え付け方法より、より自然な感じで花開くとの説明でした。春、この花壇がどのようにになっているのか、ワクワクしますね。

昨年先行して植栽された、錦原競馬場横花壇の写真も掲載します。ベンチも用意され、素敵な散歩コースになっています。花壇の手入れや植栽にも参加できます。

詳しくは、<https://www.town.aya.miyazaki.jp/site/garden/> をご覧ください。

問い合わせ先 綾町建設課管理係 tel:0985-85-77-3467

事務局だより



◆ てらはの森の会 関連行事

終了した行事

- 9月 17日(木) 地域づくりワーキング
- 24日(木) 第2回綾プロ連絡調整会議
- 第3回綾プロ連携会議
- 10月 6日(水) 「照葉樹林だより」56号発送
- 20日(火) げんだぼの森カヤネズミ調査2名
- 28日(水) 綾町B R 地域連携協議会
- 29日(木) 地域づくりワーキング コース整備
- 11月 4日(水) 綾里ガイド下見(綾神社周辺)6名
- 12日(木) 照葉樹林ガイドボランティア下見研修5名
- 13日(金) 綾里ガイド 中坪保育所32名
- 19日(木) 照葉樹林ガイドボランティア
高原町4校合同小学校修学旅行75名
- 23日(月・祝) 大人の山学校モニターツアー延期
- 24日(火) げんだぼの森枝打ち作業6名
県有林遊歩道調査3名
- 27日(金) 第3回 綾プロ連絡調整会議
- 28日(土) 第1回復元作業中止
林床調査(多古羅)9名
- 1月 22日(金) 第4回 綾プロ連絡調整会議

今後の予定 (予告なく変更になる場合があります、ご了承ください。)

- 2月 19日(金) 綾プロ運営の検討会
- 24日(水) 第4回 綾プロ連絡調整会議
- 第33回 綾プロ連携会議
- 未定 第2回復元作業中止

◆ ガイドの受け入れをお断りしています!

てらはの森の会では、コロナ感染防止のため、引き続きガイドの受け入れをお断りしています。

ガイド事業再開の時は、ホームページにてご連絡いたしますので、もうしばらくお待ちください！

◆ てらはの森の会HPのアドレスが変わりました

<http://www.teruhanomori.com>→
<http://www.teruhanomori.jp>
F Bでも情報発信中です。どうぞ、ご覧ください！

ご寄付をいただきました。大切に使わせていただきます。

(敬称略 令和3年1月22日まで) 吊橋秋募金(7,379円)
臼間敏、藤本綾子、浅沼史樹、角田富士光、前田章子、木野田毅、
糸永正之、菊池のぞみ、道家哲平、八代佳代子、谷之木正和

会員募集中!

(一社)てらはの森の会では、綾の照葉樹林プロジェクト(綾プロ)にご協力いただける会員を募集しています。会員になっていただくと、照葉樹林や綾プロに関する情報を掲載した「照葉樹林だより」を年3回お届けします。綾プロが実施するイベントや各種行事に参加できます。詳細は事務局までお気軽にお問合せください。

年会費

個人会員	2,000円
団体会員	5,000円
法人会員	10,000円